

洋傘は

文化元年（一八〇四年）

長崎に入港した

唐船の船載品目として

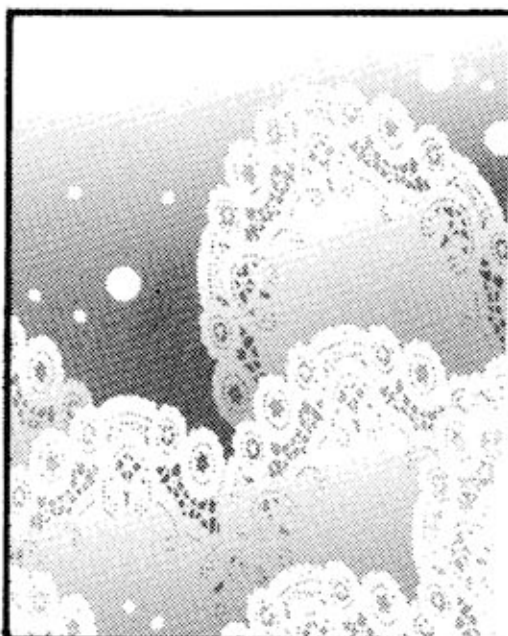
「黄とんす傘一本」と

記録されたのが

日本に伝わった

洋傘の起源と

いわれています



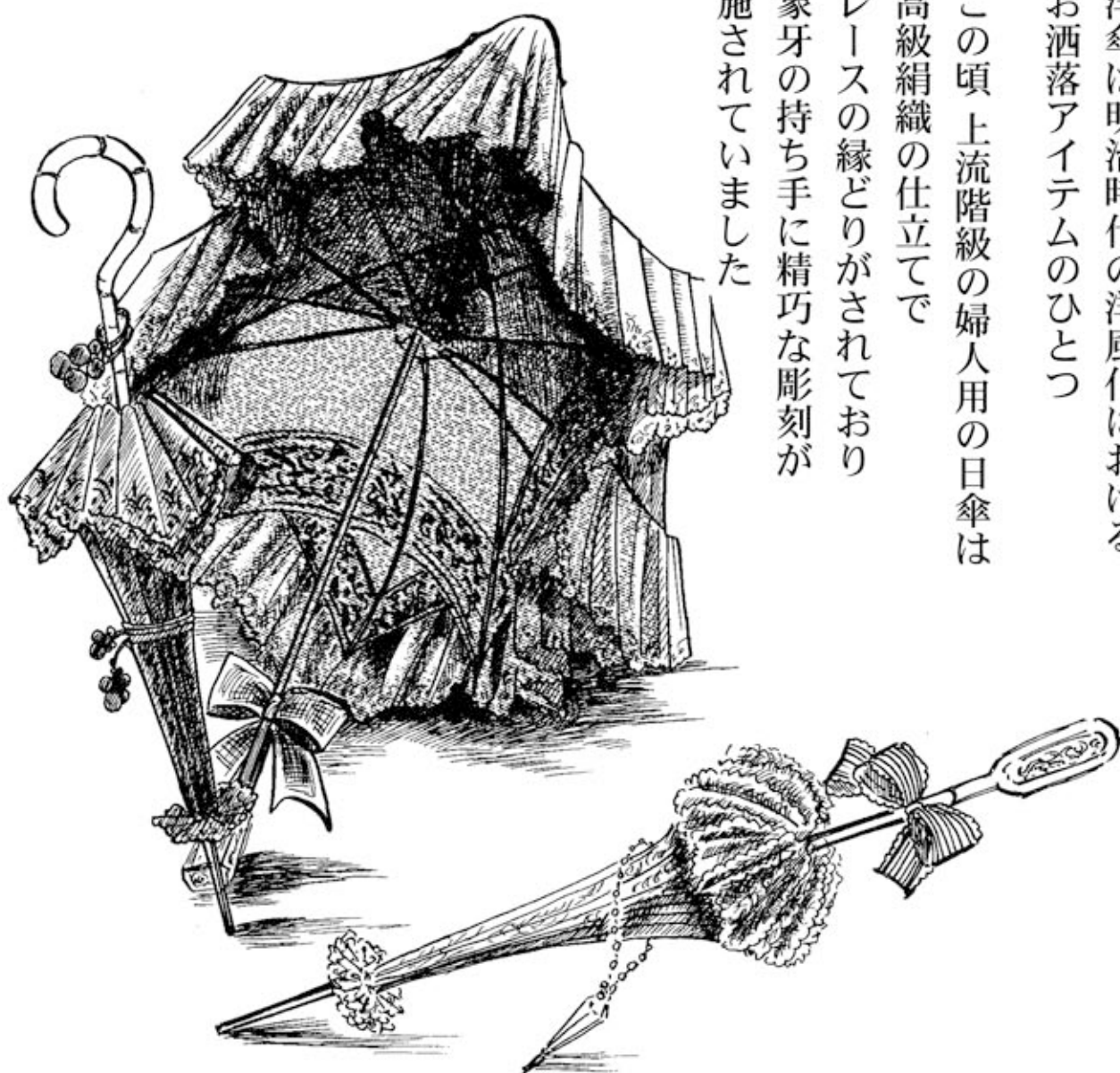
洋傘は明治時代の洋風化における
お洒落アイテムのひとつ

この頃 上流階級の婦人用の日傘は
高級絹織の仕立てで

レースの縁どりがされており

象牙の持ち手に精巧な彫刻が

施されていました



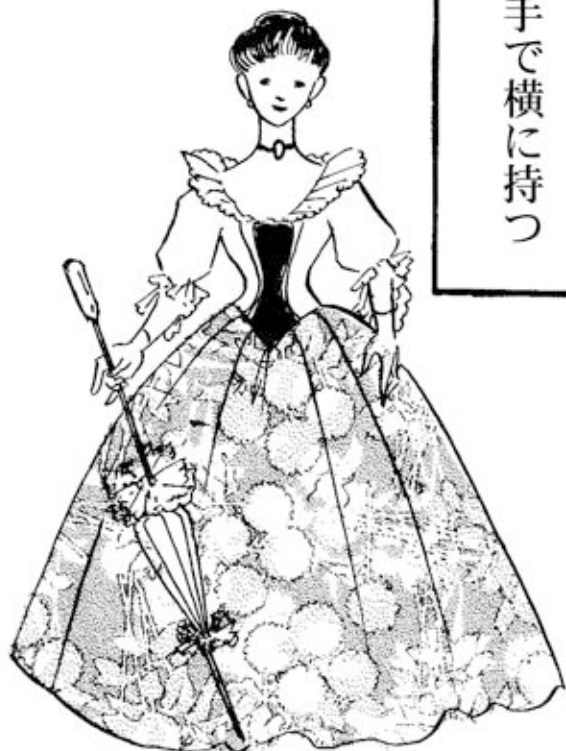
当時の女性の
バツスルスタイルの服装と
日傘姿



当時

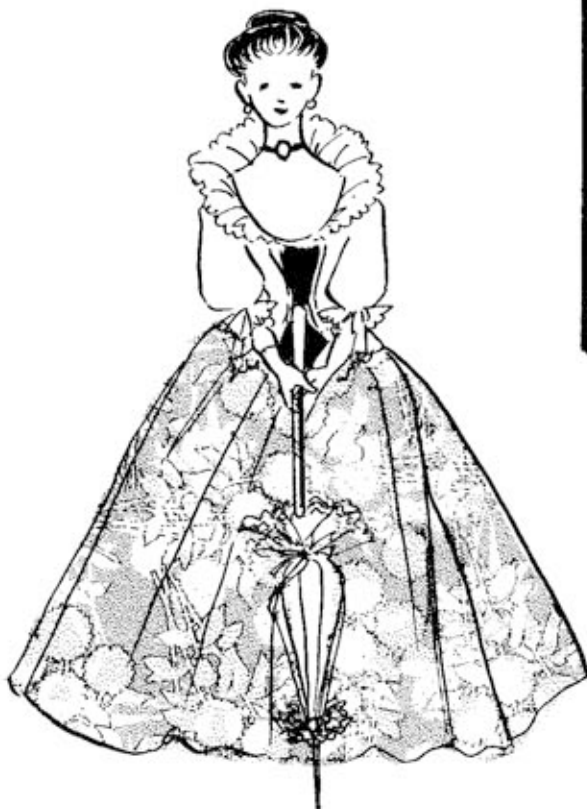
上流階級の女性は
男性と親しく口をきくのは
許されなかったため
パラソルのサインをつくっていたといひます

たとえば
傘を閉じて
右手で横に持つ



「ついでに」

傘を閉じる



「あなたと
お話したいわ」

などです

明治16年（一八八三年）

政府が

欧化政策を打ち出し

鹿鳴館の落成を機に

上流階級だけでなく

庶民の生活にも

欧風化が加速します

当時の写真には
着物姿に
洋傘姿の女性が
写っています



手袋に洋傘・
レースのショールを
巻いたオシャレな女性



袴に長羽織のハイカラな女学生

明治22年
 (一八八九年)頃から
 洋傘が国産化される
 ようになると
 庶民にも手が届く値段に
 なります

明治後期には
 上海や香港などへの
 主要輸出品目にまで
 成長しました

当時の
 洋傘をつくる様子



近頃は
 アンティークの着物に
 日傘を携えた
 若い女性も
 みかけるようになりました

洋傘は
 昔も今も
 お洒落の
 必須アイテムとして
 大活躍のようです

ブーツ姿にも
 じっくり
 なじみますね♡

